穂商マーケットを通して

３年４組　飯沢　倫子

「いつまで学生気分でやってるの？次期社長としての自覚を持ちなさい。」

昨年の今頃、先生に言われた言葉。今でも覚えています。あれから１年、私は少しでも成長したのだろうかと考える日々です。

私達の通う穂高商業高校には、実際のデパートのように仕入れから販売まで生徒が主体となって行い、日々の授業で学んでいる商業を、模擬株式会社を運営することで学ぶ、穂商マーケットという行事があります。第１８回目を迎える今年、私は穂商マーケットの代表取締役社長を勤めさせていただいています。

今年の穂商マーケットのテーマは「CAMPUS～地域と彩る新たなページ～」です。私自身、ボランティアや、特産物を使った商品開発などの活動の中で、地域の方々には大変お世話になりましたし、何より安曇野市を知ることでより好きになりました。そんな地域への恩返しをして、共に穂商マーケットを作り上げていきたい、という想いがこのテーマには込められています。

そこで今年は、穂商マーケットオリジナル商品の充実はもちろん、初のフードコート設立や抽選会を開催し、こども夢の国では、ハロウィンパーティーとして巨大迷路に加えて、「化け猫屋敷」という宝探しと鬼ごっこが融合されたゲームを行い、子供から大人まで幅広い人が楽しめるようなマーケットを目指しました。

また、来てくださったお客様には感謝をこめて、生徒一人ひとりの手書きメッセージ付のささやかなプレゼントをしたり、例年課題となっているスリッパの数を増やしたり駐車場も拡大し、無料シャトルバスを運行することで、よりお客様が快適に過ごせる環境づくりをしました。

日々の感謝を、穂商マーケットを通してお伝えし、地域の方々にとってかけがえのない活動となるよう生徒一丸となって尽力しております。

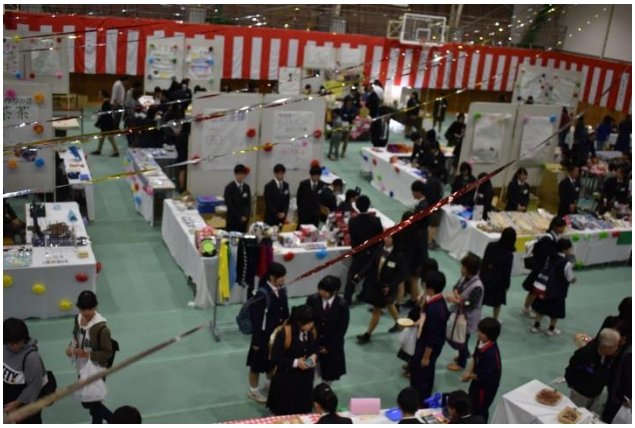
私はこの穂商マーケットを通して様々な経験をさせていただいています。もともと穂商マーケットがやりたくて穂高商業高校に入学した私は、やりたいことは沢山浮かぶのに、自分の力不足で思うように実現できず身動きが取れない息苦しさを感じる

ことも沢山ありました。そして何より、私がミスをし「今年の取締役は・・・」と失望を一括りにされたとき。このときに、自分の置かれた立場の責任の重さがしっかりと目に見えた気がして、自分ひとりのミスや勝手な行動で取締役全体の評価を損ねてしまうのだと改めて実感しました。

穂商マーケットは、模擬会社とはいっても、実際の会社のように運営を行うので、学生気分で、「聞いてないから分からない」「仕事をもらってないから出来ない」では通用しない世界です。自分で状況を判断してやるべきことを考え、自らの責任で行動することが出来なくてはならないと気づかされてからは、どれだけ頑張ったかではなく、どのようにして結果を残していくかに重点を置くようになりました。

それから、取締役の仲間とともに、生徒を形上まとめるだけでなく、気持ちの面でも全校で同じ目標に向かっていく為に、生徒もやる気が出る企画を考えたり、株主総会など全社員が集まる場で話す言葉に力をいれたり、過去の台本やチラシを変え、昨年の道のりをただなぞるだけではなく、新たな企画を行うなどして、協調性を持ち主体的に取り組むことの大切さを実感しました。

また、仕事をする中で、何かあった時に一緒に悩んで考えてくれて、遅い時間でも一緒に残って仕事をし、私を支えてくれた取締役の仲間。より良い穂商マーケットにしようと私についてきてくれた穂高商業高校の生徒。時に優しく、時に厳しく私を指導してくださった先生方。そして協力してくださった企業の方々や、地域の方々。本当に様々な方への感謝でいっぱいです。

今、私の将来の目標は、地元の銀行に勤めることです。この穂商マーケットでの経験を通して培われた主体性や、臨機応変な行動、責任感を生かしたいと思います。人間に例えると血液とも言われている「お金」、経済活動に欠かせないお金の問題に関わることで、お世話になった地域社会に貢献していきたいと思います。

思い返せば、初めは何もわからず誰かに頼りきりだった私が、今では責任感や主体性をもち、目標も見つけそれに向かって努力できている。このように自分を成長させてくれた環境に、深く感謝しています。